

北海道・炭坑労働調査に行く……一九五四年

合席の若さ女が居眠りて もたれきたるを支え行くわれ（函館本線にて）

炭坑の町に入ればさすがなり 役場よりでつかき組合本部

炭住の裸電気のわびしきは わが故郷のわびしさに似る（炭住とは炭鉱労働者の住む長屋）

炭住の小学校の運動会 しばし見つるにうるみ来る暇

ひたすらに線路の道を歩みたり 路銀乏しきオルグのわれら

霧のごと花の粉降る原始林 むせかえり行き尋（と）めしわが道

路銀絶え線路歩いて夜明くれば 極楽のごと見ゆ菜の花畑

限りなき菜の花の道に夜明くれば 浄土の朝もかくと偲ばゆ

果てしなき菜の花の道むせかえり むせかえり行く北国の春

美わしき蓮のうてなに糸紡ぐ 母を夢見て旅寝覚めゆく

函館にて荷物持ち助けしかの婦人 浅虫に泊まれとわれを誘えり

誘われて降りし浅虫夕焼けて われ駈け技けて汽車に戻りぬ